

～障がいがある人・ない人にかかわらず、いろいろな人がいることを知ってください～

Yoshioka Masashi

三島市手をつなぐ育成会会長 吉岡正さん

障がいがある子どもの保護者などを中心に組織し、地域の人に理解と協力を呼びかけ、環境の整備や充実を目指し、133人の会員で活動しています。障がい児・者の保護者などからの相談の受け付け、勉強会、グループホームなどへの施設見学、サポートファイルの配布、独自の防災マップの作成、コンサートなどを行い、その中で情報や想いを共有しています。

夏のコンサートは、席で聞くだけでなく、みんなで舞台上に上がり、一緒に楽しむことができます。障がいの有無にかかわらず、いろいろな人たちがいることを知る機会になると思います。実際に障がいがある人の活動を見ること、接することで、理解を深めていただけると嬉しいで



▲市民文化会館を会場とした夏のコンサートの様子

す。また、子どもたちは施設や事業所の皆さんと日ごろからかかわりが多いですが、そのような人たちと一緒に障がいへの理解を深めていければと思っています。

障がいの種類、状態にかかわらず、親亡きあと、子どもが自立し、地域で生活できるように、適切な支援を受け、子どもが安心して生活できる社会になることを願っています。

市の取り組み

佐野あゆみの里をはじめとする障がい者支援センターの充実を図るとともに、障がい者施設、事業所との協働事業を推進しています。

「知る」から「理解」へ

～まずは、知ってください。そして理解し、支援の輪を広げてください～

Usui Hiromasa

静岡県自閉症協会顧問 碓井宏政さん

自閉症児・者をかかえる家族を中心に組織し、地域において理解を得ながら、自閉症児・者が自立した生活が送れるような環境づくりを推進するため会員同士の交流、研修会、啓発活動、相談会などを行っています。平成24年の就学児童の6.5%が発達障がい児という統計があるように、保護者の会である三島支部の会員も100人を超えています。

発達障がいは増加していますが、まだ理解が十分浸透していないと感じています。そのため、発達障がいがある子どもが、地域や社会で適応できないという話をよく耳にします。まずは発達障がいについて知っていただきたいと思います。発達障がいは治るものでは



▲消防職員を対象とした講演会の様子

ありませんが、早いうちに気づき、適切な療育支援を行うことで、普通の生活を送ることができます。

これまで、医師不足などから社会的支援が遅れていましたが、三島市では5年前から、発達障がいの子どもの早期発見・早期対応の体制が確立してきていると思います。今後は、そうした支援のさらなる充実、地域の皆さんの理解、そして支援をお願いします。

市の取り組み

発達障がいの子どもの早期発見・早期対応は療育支援室を中心に、子育て・障がい・教育・健康に関する課や機関が、一体となって取り組んでいます。



理解、そして行動へ

発達障がいとは脳機能障がいですが、その人（子ども）がもつ強い個性とも言われています。

発達障がいがあると、コミュニケーションや友達との関係を築くのが苦手です。また、「自分勝手」、「変わっている」、「困った子」、「親のしつけが悪い」と誤解されやすいですが、「脳機能の障がいによるもの」と理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

こんなケースがあります

自閉症スペクトラム ▶言葉の発達の遅れ▶コミュニケーション、社会性の障がい▶パターン化した行動
例：物事が決められた通り進まない
と嫌だったり、初めての場所や急な予定変更などがあると対応できなくなることがある。



アスペルガー症候群 ▶基本的に言葉の発達の遅れはない▶不器用（言葉の発達に比べて）▶パターン化した行動、関心のかたより
例：自分のことばかり話してしまい、はっきりと「終わりにしてください」と言われないと話が止まらない。



注意欠如多動性障害（ADHD） ▶集中できない▶じっとしていられない▶考えるよりも先に動くなど
例：集中力がコントロールできず大事な予定を忘れてたり、大切なものを置き忘れてたりする。



学習障害（LD） ▶その子どもの全体的な知的発達に比べて、「読む」「書く」「計算する」ことが極端に苦手。
例：授業で大事なことを忘れまいとメモをとるが、「見る」「書く」が苦手なので内容がわからなくなる。



気づいてほしい

発達障がいのある人（子ども）が、社会に適応する力を身につけ、自分らしく前進できるようにするためには、まず発達障がいに早く気づくことが大切です。（紹介している内容に該当していても、すべての人が発達障がいというわけではありません。）

例：▶一人遊びが多い▶ざわざわした音に敏感で雷や大きな音が苦手▶友達が嫌がっていることに気づかない▶おしゃべりだが、先生などの指示が伝わりにくい▶一度感情が高まると興奮がおさまらない▶没頭すると話しかけても聞いていない▶運動が苦手な動作が不器用



発達障がいの人に接するときの配慮

一人一人の特徴を知り、それに応じた配慮・支援をすることが大切です。

できたことをほめる・できないことは教える できないことはどのようにすればよくなるのか肯定的・具体的に伝える。

ルールやうまくいくやり方を教える いけないことははっきり伝え、具体的にどうしたらよいかを教える。

安心・安全な環境を整える 人ごみや大きな音などを苦手とする人が多くいるため、安心できる環境を作る。

目に見えるもので説明する イラストなどを見せることで、理解しやすくなり、見通しが持てるようになる。



12月3日(木)～9日(水)は障害者週間

障がい福祉についての理解を深めてください

障害者週間は、障がいがない人の障害者福祉についての理解と関心を深め、障がいがある人が社会に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした「障害者基本法」によって定められています。この機会に障がい者福祉について考えてみましょう。また市では、障害者週間を記念した啓発イベントを開催します。

●三島市障がい者応援大使スペシャルイベント

とき 12月3日(木)午後7時から
ところ 生涯学習センター3階講義室

●障がい者施設利用者作品展

とき 12月3日(木)～9日(水)
ところ 市役所本館玄関ロビー

問合せ 障がい福祉課 (☎983-2612)